

(2014 年度) 第 3 回 応用地形判読士資格検定試験 一次試験問題

[午後の部]

試験実施の注意事項

➤ この試験会場では、次に示す 3 つの資格検定試験を実施する。

地質調査技士資格検定試験／応用地形判読士資格検定試験／地質情報管理士資格検定試験

➤ 試験実施にあたっては、次に示す試験の実施時間、各試験共通の注意事項および受験する資格検定試験の注意事項を確認すること。

試験の実施時間

試験種類	午前の部	午後の部
地質調査技士資格検定試験	午前 9 時 30 分～午後 12 時 30 分	午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分 ※現場調査部門は口答試験を実施
応用地形判読士資格検定試験	午前 9 時 30 分～午後 12 時 30 分	午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分
地質情報管理士資格検定試験	午前 9 時 30 分～午後 12 時 30 分	なし

各試験共通の注意事項

- (1) 筆記試験は、全国統一試験問題として一斉に行う。
- (2) 試験開始後 1 時間は、退場を認めない。
- (3) 試験実施にあたり、落丁や乱丁のないこと、また印刷の不鮮明な点がないことを確認すること。
- (4) 試験中、机の上には、筆記用具、受験票、試験問題用紙、答案用紙、その他指定された文房具以外のものは置かないこと。また、試験中の飲食は禁じる。
- (5) 試験開始後は、参考書籍のほか、携帯電話など電子機器類の使用は一切禁じる。また、試験開始後は、原則として質問に応じない。
- (6) 試験終了後、この問題は持ち帰ってもよい。

応用地形判読士資格検定試験の注意事項

- (1) 問題は、A 群から 1 問、B 群から 1 問、選択すること。
- (2) 解答は、マス目入り答案用紙に記入すること。
答案用紙には、受験番号と選択した問題番号を必ず記入すること。
- (3) 試験問題の一部で使用している国土地理院発行の地形図は、上を北としている。

以上

《A群》

A-1. 海岸段丘の旧汀線について、以下の設問に答えよ。

- a) 旧汀線は、地形学的にはどのような場所で認識されるのか説明せよ。その際、答案用紙に断面図等を書き加えてもよい。
- b) 海水準変化と旧汀線の間係を説明せよ。
- c) 同時代の海岸段丘を対比するとき、その目安に旧汀線高度が用いられる。その理由を説明せよ。また、旧汀線と地殻変動の間係を説明せよ。
- d) 地形図から旧汀線高度を読み取る場合、真の高度ではない場合が多い。その理由を説明し、正しい旧汀線高度を求めるにはどうすればよいか説明せよ。

A-2. 扇状地について、以下の設問に答えよ。

- a) 扇状地の形態的特徴を二つ挙げ、それぞれについて説明せよ。
- b) 扇状地の形成過程について説明せよ。
- c) 扇状地の地盤、河川、地下水の特徴を、それぞれ述べよ。
- d) 扇状地における以下の①と②について、それぞれ二つ挙げてその理由を説明せよ。
 - ① 土地利用の特徴
 - ② 発生する自然災害

《B群》

B-1. 日本で一般に見られる山地斜面のなかの 0 次谷 について、以下の設問に答えよ。

- 0 次谷とは何か。また、0 次谷と類義の地形名を述べよ。
- 0 次谷の地形発達メカニズムについて、その他の山地斜面との違いに着目して説明せよ。
- 0 次谷でとくに生じやすい土砂災害の形態について二つ挙げ、それぞれについて地形地質調査における留意点を述べよ。

B-2. 下の地形図に破線で丸囲みした A~C の緩斜面それぞれについて、地形の特徴に基づいてその成因を述べよ。

